

静岡県立大学短期大学部浜松校『研究紀要』の終刊にあたって

静岡県立大学短期大学部
副部長 青山 政 雄

静岡県立大学短期大学部浜松校は平成13年3月をもって閉校の予定であり、これに伴い本『研究紀要』もこの号をもって終刊することになりました。本学は静岡女子短期大学を前身としながら、昭和62年4月に、県立三大学(静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学)の統合とともに、文化教養学科、食物栄養学科、第一看護学科、第二看護学科の四学科からなる総合短期大学部として開学しました。平成9年4月には第一・第二看護学科を静岡市に移設し、新たに歯科衛生学科と社会福祉学科を加えて、医療福祉系の短期大学部静岡校が開設されました。本学は2キャンパスの時代を迎え、各々のキャンパスから『研究紀要』が分冊の形で発行されてきました。他方で、県西部地域住民の強い要望に基づいて、短期大学部浜松校を基礎とする静岡文化芸術大学が平成12年4月に開学し、それに伴って、本校は平成13年3月に地域と時代の要請に応える高等教育機関としての歴史的使命を終えることになりました。

本学は、「教育と研究を目的とする大学において、学術研究の成果を発表することは大学の責務である」という自覚のうえに立って、『研究紀要』を発刊してきたように思われます。大学として自らの研究発表誌をもつことは、教育・研究機関としての自立性を確保するために不可欠の要件であります。浜松校の『研究紀要』は創刊号から14号に至り、人文科学、社会科学、自然科学などにわたる幅広い専門分野からなる210篇以上の諸論稿を世に問うてきました。紀要はノー・レフェリーとの批判を受けることがありますが、個性的で創造的な研究の発表の場ともなる可能性をもってあります。少なくとも、紀要が研究者の相互理解を深め、研究を促進し、そのレベルを高めてきたことは疑いえないでありましょう。さらに、私たちは平成9年度(11-3号)から、電子出版である『研究紀要Web版』を短大部ホームページ上に開設し、研究発表の場を飛躍的に拡げてきました。学術メディアとしての紀要の果たす役割は極めて大きく、まさに『研究紀要』は情報発信を目指す本校の一つの顔になっていたと考えられます。

最後になりましたが、短期大学部浜松校『研究紀要』の終刊にあたり、これまで種々のご努力を重ねていただいた紀要委員会の諸氏に心から感謝いたしますとともに、短期大学部『研究紀要』がさらに充実いたしますよう祈念する次第です。

